

伊豆の長八展

昭和52年6月3日～7月15日



1. 天孫降臨図 塗額 龍沢寺

長八展開催にあたって

入江長八は、江戸時代の末ころ、賀茂郡松崎町に生まれ、三島にもしばしば滞在した人です。生前から、「漆喰（しっくい）名人、伊豆の長八」として、東都にその名を高めていました。ところが、いろいろなきさつから、いまだ没後百年もたっていないのに、既に多くの作品が亡失し完全な遺作は数を限られています。その上、作品の性格や、所在場所の関係から、長いこと多くの作品を、簡単に見ることが出来難い状態になっていました。したがって、たとえその名は聞いても、実際に作品に接した人は、案外少なかったのではないかと思います。

今回、松崎町・長八作品保存会を始めとして、地元や近在のかたがたのご厚情により、長八の生涯に深い因縁を持つ当三島市で、その作品展を開くことの出来たことは、まことに意義深いことと考えます。

ご承知のように長八は、「漆喰（しっくい）技法」に関して、前人未到の奥義を窮めた人です。しかも、後人の追隨が、あるいは不可能かといわれる、独特な芸境の名人でもあります。

どうぞ、伊豆の生んだ芸術家の、至妙な技巧と、幅広い芸風を、十分鑑賞していただきとうございます。

終りに、ご協力下さいましたかたがたに、深く敬意を表してあいさつと致します。

昭和52年6月3日

三島市教育長 吉川 静雄

主催 三島市教育委員会
協力 松崎町長八保存会

伊豆の長八

左官の名人入江長八はその生涯の中で数多くの制作をした。現在にも彼の作品のいくらかが残され保存されている。長八は伊豆松崎に生まれ、やがて江戸に出て腕を磨き名声を得た左官職人であった。しかし今に残る彼の作品を見る時、それは並の職人の仕事を越えた迫力と自由な感覚をもって、見る側の我々に迫ってくる。その理由は、長八自身が持って生まれた才能に因ることよりも、彼が選び歩んだ波乱万丈の生涯とより深く関連があるのだろう。長八についての伝説は今なお数多く語られ、伝記も何人かの人によって著わされている。

長八の生涯に強い影響を与えたのは仏教であったのだろう。幼少時代の松崎浄感寺の正観上人、明治期に入ってから三島龍沢寺の星定禅師との出会い等は、彼に単なる左官職人を越えた意欲を抱かせるのに十分な運命的出会いであった。両寺院には、そこで並々ならない感動を受けたことを証明する彼の作品が数多く残されている。今は失なって見ることはできないが、東京茅場町の薬師堂、浅草正定寺にも彼の情熱を傾けた作品があったと伝えられている。

長八を普通の左官職人と区別できるもう一つの要素は彼の技法である。結城素明著『伊豆長八』の中で、鍍絵と呼ばれているのがそれだ。鍍絵とは、素材の漆喰を大小さまざまな鍍を用いて壁、杉板、紙等に描いた絵画をいう。長八は持ち前の技量に加えて、独特の技法、彩色法を編み出し、この鍍絵を完成させた第一人者であると言われている。現在松崎町の旧岩科小学校の校舎に残る千羽鶴の壁、三島龍沢寺の隠窓の鍍絵壁等は、長八が普通の左官職人を越えた技法の持ち主であることを実証するに足るものである。また漆喰による彫刻も彼独自のもので、その数も多い。大きいものでは龍沢寺の不動明王漆喰像、小品では恵比須、大黒漆喰像など、それらは素材がもつ独特の円やかなムードを有した出来である。長八は鍍絵という技法を自在に駆使することによって職人の技術では表現できないものを求め得たと言える。彼の経験から来る自由な精神と彼の生み出した技法から来る自信とが、制作に余裕という空間を与えたのであろう。

今、長八の作品は松崎と三島に多く保存されている。三島における作品は、龍沢寺によって象徴される。そこには彼の手がけた制作のすべての様式が余す所なく具現されている。思うに、長八が鍍絵芸術について精神的な、ことに仏教的なものを希求し、その究極を龍沢寺の禅に至らしめた事実を、彼は作品によって示そうとしたのではなからうか。最も多く作品を残した東京が、今や絶滅に等しい時、長八を思慕し長八作品を鑑賞するためには、どうしても松崎と三島を除外してはならない。松崎と三島は長八作品の二大メッカであり、二者を併せ見ることによってのみ長八の創造の真髄を理解し得られる。

長八の足跡

川越

絵画の師、喜多武清との出会い。絵の修業。

江戸

左官として弟子入り後、深川播磨屋を継いで独立、茅場町の薬師堂など立派な仕事をして名声を得る。浅草正定寺に入江家の墓がある。

三島

三島龍沢寺での星定禅師との出会いの影響は大きい。同寺、歓喜寺等で多くの充実した仕事をしている。

松崎

誕生の地。生涯の中で度々帰郷し、浄感寺、岩科小学校の外で優れた仕事をしている。現在長八作品はこの地に最も多く残っている。

駿府

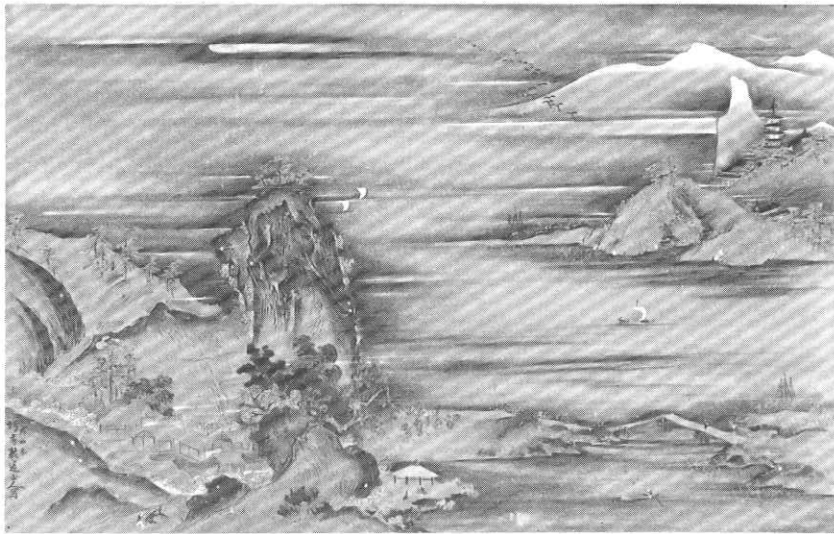
鉄舟、次郎長との交友。徒弟時代に駿府でも仕事をしている。

京

一説に京で絵の修業をしたと言われる。「一の字」の伝説があるが謎である。



2、富岳旅愁図塗額



3. 秋江帰帆図塗額



4. 鍾馗鬼追図塗額



8. 皿阿亀静御前塗額

漆喰細工
鏡子用ニ各種ノ漆喰ヲ塗抹シ水彩ノ顔色ヲ描寫ス衣紋骨格毛筆ヲ用ニニ階リ備ノ浮起メ法歐洲ニ於テ有ラ吏ニ位妙ニ畫ルハニ高橋忠七出品ニ見強遠ク亦巧ニ難致ナリ

右ノ事項ニ因リ褒賞ヲ受ケテ
中請ス

審査官
主任 川上 寛 印
 列座 菅 豊 印
 全 堀 田 貞 印
 伊 東 健 印

富直官長 正五位 前嶋 登 印
 富直官長 爲告 領之ニ 爲 賞 官 又

明治十年十月廿日 内務卿 徳田 金 保 利 通 印

事轉ニ世傳一巧翁
 萬象森羅主成
 通所第七年人
 誠否褒状
 富 認
 勳 眞
 室

說道玄
松風

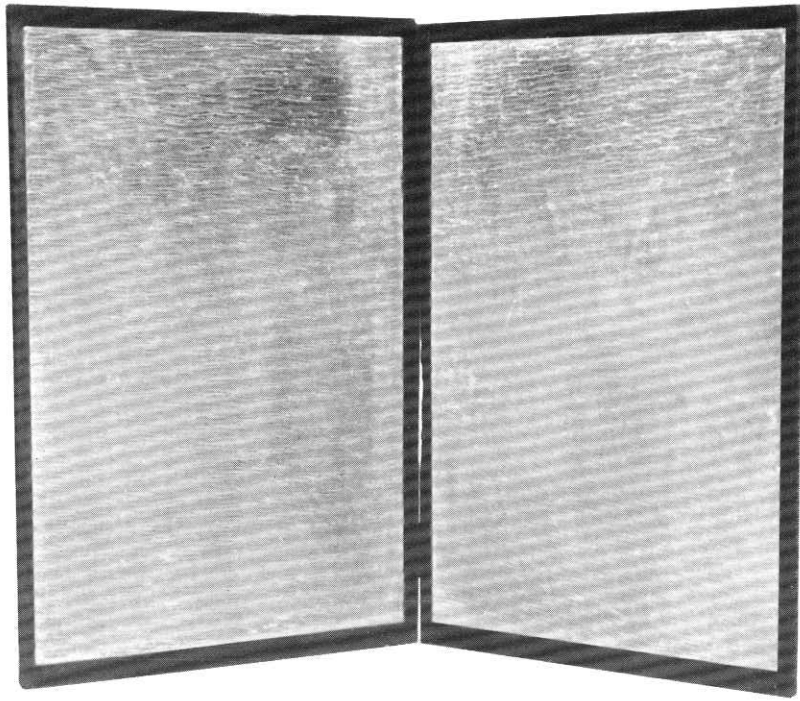
明治十年十月廿日 爲告 領之ニ 爲 賞 官 又

入江長八
伊豆國賀茂郡松崎村
 静岡縣下
 静岡縣下

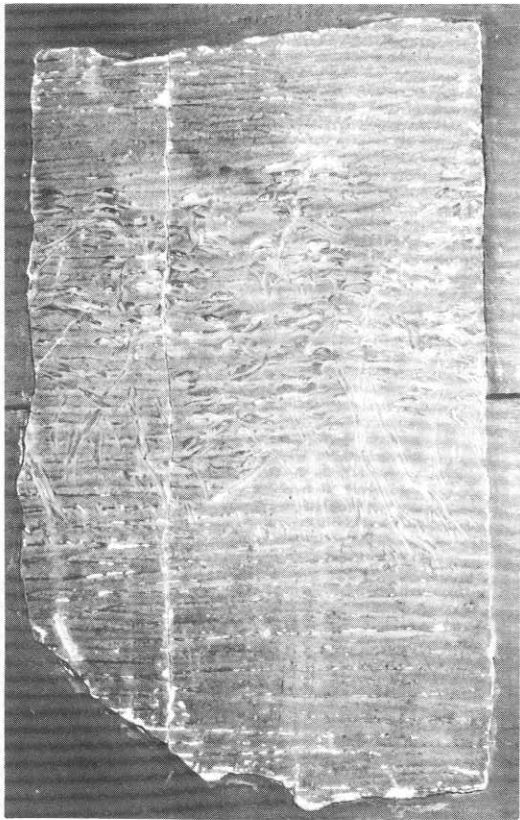
明治十年 内務卿賞博覽會



9. 長八肖像塗額 佐藤甚三作



11. 波文屏風



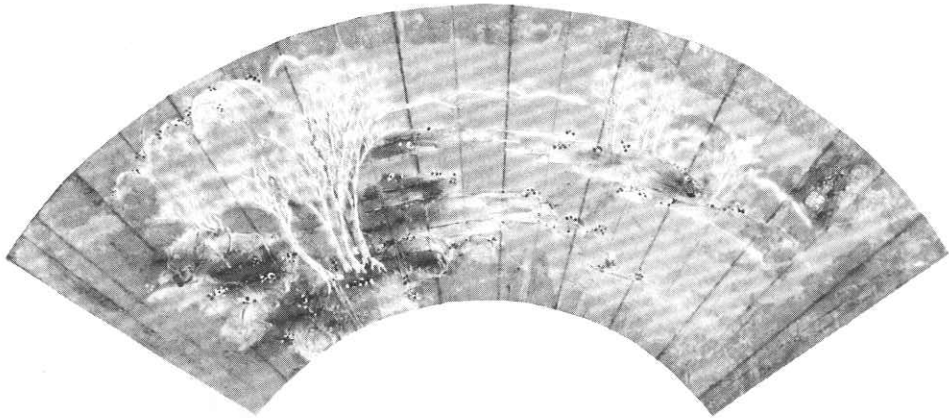
12. 浜松図鍔絵壁



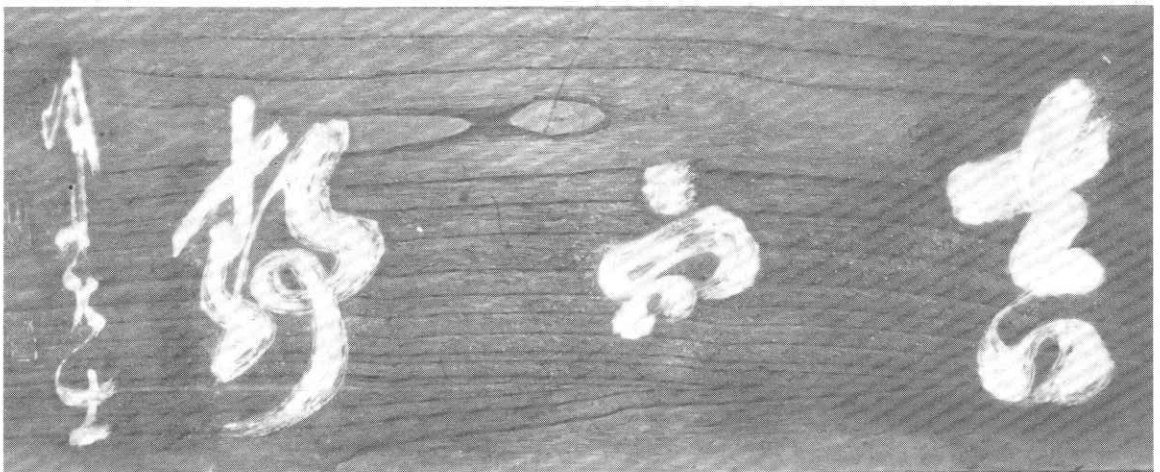
13. 蟠龍文鍔絵ランプ掛



15、女達磨図鍔絵額



17. 雪亭山水図扇面



18. 「真而静」鍔書額 鉄舟書・長八鍔



19、神農像



20、大黑像



21、大黑像



22. 達磨大師像 松崎町指定文化財



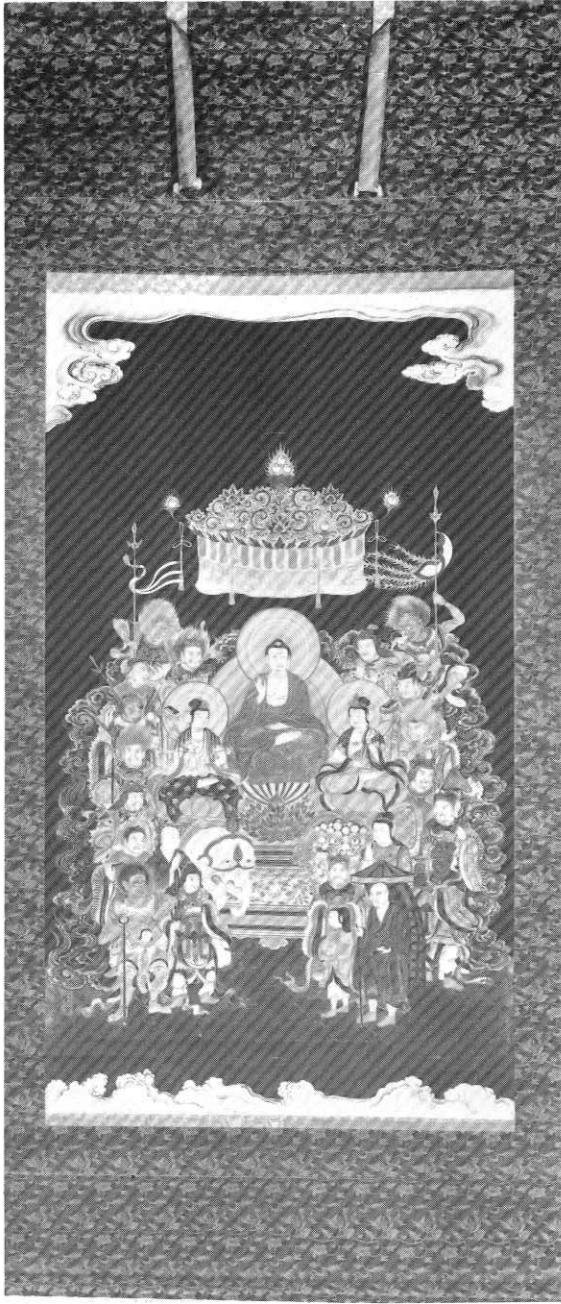
23. 達磨像



24、
子育観音像



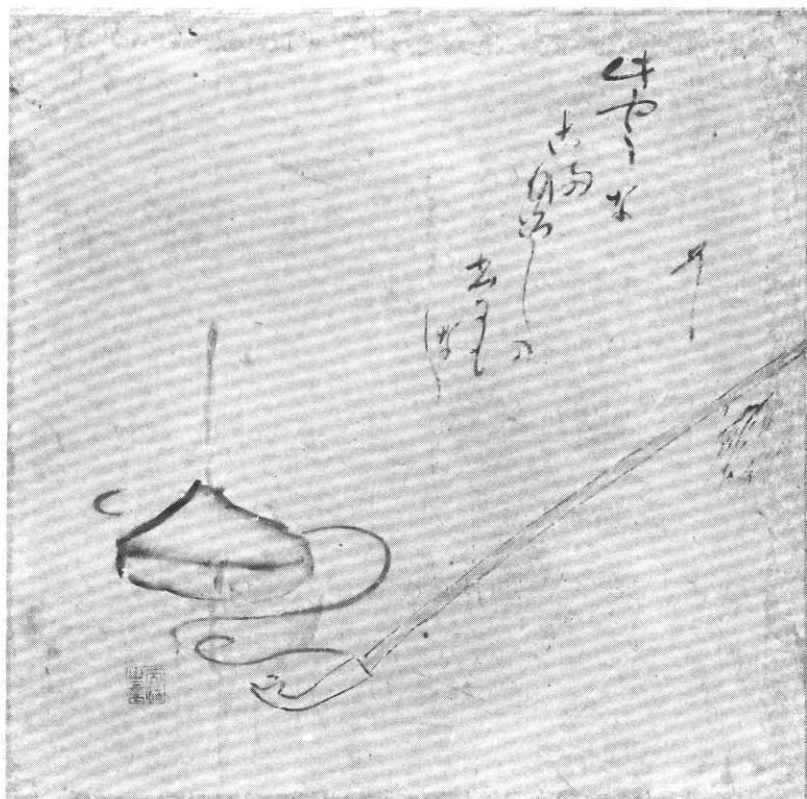
25. 座像 (名称不詳)



27、十六善神画像 松崎町指定文化財



28、聖徳太子と工匠神画像



29、煙管独染図 長八画・行誠上人讚



30. 葦葉達磨画像



31. 達磨画像 星定禅師讚

伊豆の長八略年譜

和 歴	西 歴	長 八 年 譜
文 化 12	1 8 1 5	8月5日、松崎町池丁に長八生まれる。
文 政 4	1 8 2 1	長八、浄感寺塾に入学。
” 9	1 8 2 6	この頃、左官の頭領関仁助に弟子入りする。
天 保 4	1 8 3 3	3月、はじめて江戸に出る。
” 5	1 8 3 4	長八、波江野の亀次郎の職人になる。
” 6	1 8 3 5	川越に行き、喜多武清について絵を学ぶ。
” 9	1 8 3 8	父兵助没す。長八帰郷。
” 12	1 8 4 1	日本橋茅場町の薬師堂の仕事に参加。郷里の親方仁助没す。
弘 化 2	1 8 4 5	この頃、郷里浄感寺の改築に参加し天井の龍、欄間の飛天その他を製作。
” 4	1 8 4 7	6月、深川の播磨屋源次郎の娘たきと結婚して波江野から独立、播磨屋金兵衛と名のる
嘉 永 6	1 8 5 3	長八の母てご没す。帰郷。
安 政 3	1 8 5 6	成田山新勝寺に長八作白に鶏図塗額を奉納する。12月喜多武清没す。
” 5	1 8 5 8	9代目播磨屋源次郎没す。8月長八浅草正定寺鎮守堂本殿を建立、寄附する。
万 延 1	1 8 6 0	5月、正定寺に自作の漆喰白象の置物を寄附する。
明 治 3	1 8 7 0	6月長八の妻たき没す。9月、平民に姓を称することが許され当時は上田長八と名のる。
” 5	1 8 7 2	9月、星谷はなを後妻とする。
” 8	1 8 7 5	上田姓を改めて入江姓とする。
” 10	1 8 7 7	8月、内国勸業博覧会に出品して賞状を受ける。山岡鉄舟と会う。
” 11	1 8 7 8	冬、龍沢寺星定老師に参禅する。この時以来天祐居士と称する。夏頃龍沢寺隠寮の諸製作をする。この頃三島徳倉の勤喜寺にも滞在して諸作品を製作する。
” 12	1 8 7 9	5月、龍沢寺不動堂の群鳥図塗額を製作。この年三島学校を建築する、長八もこの仕事に参加か。
” 13	1 8 8 0	この頃岩科村小学校及び役場の諸製作をする。6月、中西祐道（長八の高弟）龍沢寺不動堂の羅漢龍図塗額を製作する。
” 16	1 8 8 3	1月、春城院の般若会上十六善神画像を製作する。
” 18	1 8 8 5	3月、日本橋の火災で、茅場町薬師堂焼失。長八薬師堂再建に努力する。
” 22	1 8 8 9	3月、松崎に帰郷。
		10月、深川八名川町にて没す。（75才）

展 示 品 目 録

No.	名 称	員数	品 質	出 品 者
1	天孫降臨図塗額	1 額	漆喰着色	三島市 龍 沢 寺
2	富岳旅愁図塗額	"	"	松崎町 依田寿子氏
3	秋江帰帆図塗額	"	"	" 松田己一氏
4	鍾馗鬼迫図塗額	"	"	三島市 歎 喜 寺
5	白に鶏図塗額	"	漆喰淡彩	" 龍 沢 寺
6	弁慶図塗額	"	漆喰着色	" "
7	山水楼閣図塗額	"	"	修善寺町 長倉慶昌氏
8	皿阿亀静御前塗額	"	"	松崎町 稲葉忠吉氏
9	長八肖像塗額 佐藤甚三作	"	"	" 春 城 院
10	円窓に椿花図衝立	1 面	"	三島市 龍 沢 寺
11	波文屏風	2曲半双	漆喰淡彩	" 歎 喜 寺
12	浜松図鍍絵壁	1 片	"	" 須田昌平氏
13	蟠龍文鍍絵ランプ掛	1 口	"	松崎町 松崎町役場
14	竹図鍍絵壁	1 片	漆喰着色	" 長八保存会
15	女達磨図鍍絵額	1 額	"	" 稲葉忠吉氏
16	菊水図鍍絵額	"	"	三島市 郷 土 館
17	雪亭山水図扇面	"	漆喰淡彩	松崎町 鈴木はつ枝氏
18	「真而静」鍍書額 鉄舟書	"	漆 喰	修善寺町 出山みつ氏
19	神農像	1 体	"	松崎町 近藤順一郎氏
20	大黒像	"	"	三島市 龍 沢 寺
21	大黒像	"	"	" 安藤こと氏
22	達磨大師像(町指定文化財)	"	漆喰着色	松崎町 春 城 院
23	達磨大師像	"	漆 喰	" 高橋一枝氏
24	子育観音像	"	木心漆喰	三島市 歎 喜 寺
25	座 像	"	漆 喰	" 龍 沢 寺
26	恵比須・大黒像	1 対	"	修善寺町 長倉慶昌氏
27	十六善神画像(町指定文化財)	1 幅	絹本着色	松崎町 春 城 院
28	聖徳太子と工匠神画像	"	"	三島市 安藤こと氏
29	煙管独楽図 長八画, 行誠上人讃	1 額	紙本淡彩	松崎町 依田 董氏
30	葦葉達磨画像	1 幅	紙本墨書	修善寺町 長倉慶昌氏
31	達磨画像 星定禅師讃	"	紙本淡彩	" "
32	長八辞世の句			松崎町 長八保存会
33	鍍絵用具中西祐道作	47 点		西伊豆町 中西定七氏